



ユニゾ株で活発な動き 3社が新規保有「エリオット」は4度買い増し



2019年8月の大量保有報告書の提出件数は864件で、このうち株式の保有割合を増やしたのが252件（構成比29.2%）、新規保有が174件（同20.1%）、保有割合を減らしたのが393件（同45.5%）、契約の変更などが45件（同5.2%）となり、増加と新規の合計が減少を33件上回った。

2019年4月以降、増加と新規の合計が減少を下回っていたが、5カ月ぶりに反転した。前年同期（2018年8月、増加と新規の合計が減少を5件下回った）と比べても反転した。

M&A Online編集部が構築した「大量保有報告書データベース」で集計した。

2018年8月
2019年7月
2019年8月

増加

263

228

252

新規

150

154

174

減少

418

415

393

変更

61

64

45

合計

892

861

864

増減

-5

-33

33

増加は株式の保有割合を増やした件数、新規は新たに株式を保有した件数、減少は株式の保有割合を減らした件数。増減は増加と新規の合計から減少を引いた件数

【増加と新規の合計から減少を引いた件数の推移】

HISが再度のTOBを検討も

8月は旅行大手エイチ・アイ・エス（HIS）によるTOB（株式公開買い付け）が不調に終わり、米投資

ファンドのフォートレス・インベストメント・グループが新たなTOBによる買い付けを10月1日まで行っている不動産・ホテル業のユニゾホールディングスで活発な動き見られた。

エリオット・インターナショナル・エルピー、いちごアセットマネジメント・インターナショナル・ピーティーイー・リミテッド、野村證券の3社が新規に株式を保有。

このうち、エリオット・インターナショナル・エルピーは4度買い増し、保有割合を9.9%に高めたほか、いちごアセットマネジメント・インターナショナル・ピーティーイー・リミテッドも一度買い増し、保有割合を6.64%とした。野村證券の保有割合は5.08%だった。

HISは7月11日にユニゾ株の45%を保有することを目的にTOBを開始したが、TOB開始直後から株価が上昇し、株価が買付価格を上回る高値で推移したため、応募がゼロという結果に終わった。ユニゾはHISのTOBに反対を表明し、敵対的TOBに発展していた。

8月16日には米フォートレスがHISに対抗する形でユニゾが賛同する友好的なTOBを発表したが、こちらも株価が買付価格を上回っており、TOB成立（買付予定数の下限は66.7%）は難しい状況にある。

こうした事態を受けてHISは8月28日に、米投資会社フォートレスによるTOBが不成立となった場合は、新たな買付価格を設定してTOBを実施、もしくは買い増しを検討する可能性があるとして発表している。

レオパレス21 プレーヤーがさらに2社増える

施工不良問題に揺れるレオパレス21については新たなプレーヤーが2社増えた。アルデシアインベストメントと、モルガン・スタンレー・アンド・カンパニー・インターナショナル・ピーエルシーが新規に保有。モルガン・スタンレー・アンド・カンパニー・インターナショナル・ピーエルシーは一度買い増し、保有割合を7.81%とした。アルデシアインベストメントの保有割合は5.27%だった。

一方、野村證券とプリンシパル・グローバル・インベスターズは保有割合を引き下げ、5%を切った。旧村上ファンド系のレノは3カ月連続で動きがなかった。

個人で目を引いたのはZOZOの前澤友作社長。ZOZO株の担保契約で3度変更届を提出した。ZOZO株の保有割合は41.16%で変化はなかった。

文：M&A Online編集部